



*Aluminum lightens the world*

アルミでかなえる、軽やかな世界

# UACJ IR Day 2022

## UATH(タイ)・中長期戦略について

UACJ(Thailand) Co., Ltd. 取締役社長 稲垣 公樹

2022年6月9日  
株式会社UACJ



# 1-1. UACJ(Thailand) Co.,Ltd.(UATH)の概要

東南アジア地域の基幹工場として32万トン超に向けた体制の構築を目指す

従業員数

約1,350人

生産品目

缶材、自熱交、  
エアコン向けフィン材  
その一般材

展開エリア

缶材: 26カ国  
自熱交: 12カ国  
フィン材: 8カ国

顧客基盤

約70社

- 東南アジア唯一の最新鋭アルミ圧延工場
- 需要伸長が見込まれるアジア圏へのアクセスの良さ
- 日系企業をはじめとした製缶メーカーとの信頼関係



UACJ (Thailand) Co., Ltd.(タイ)

世界約26カ国  
に販売

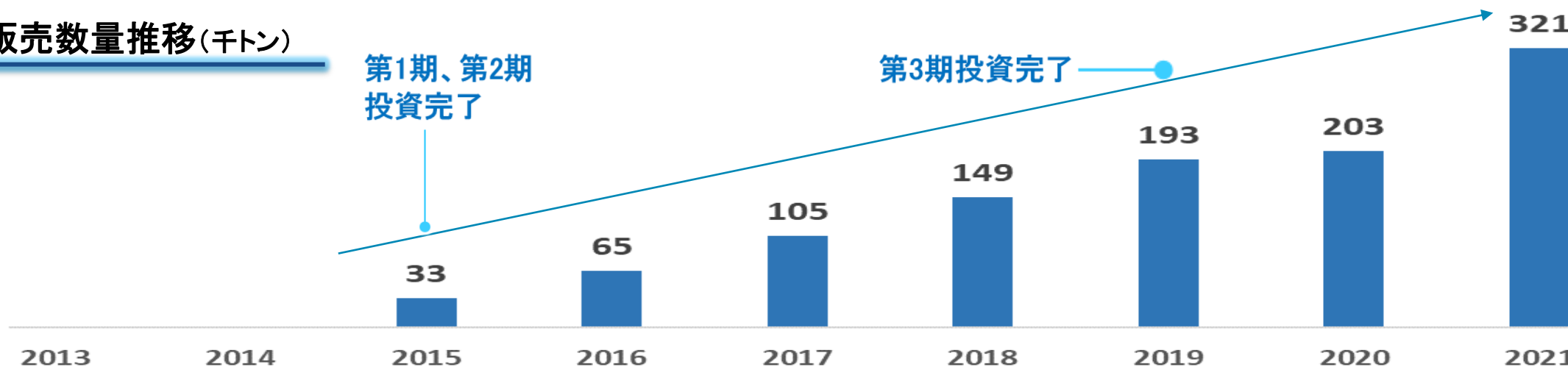
年間32万トン  
の生産体制



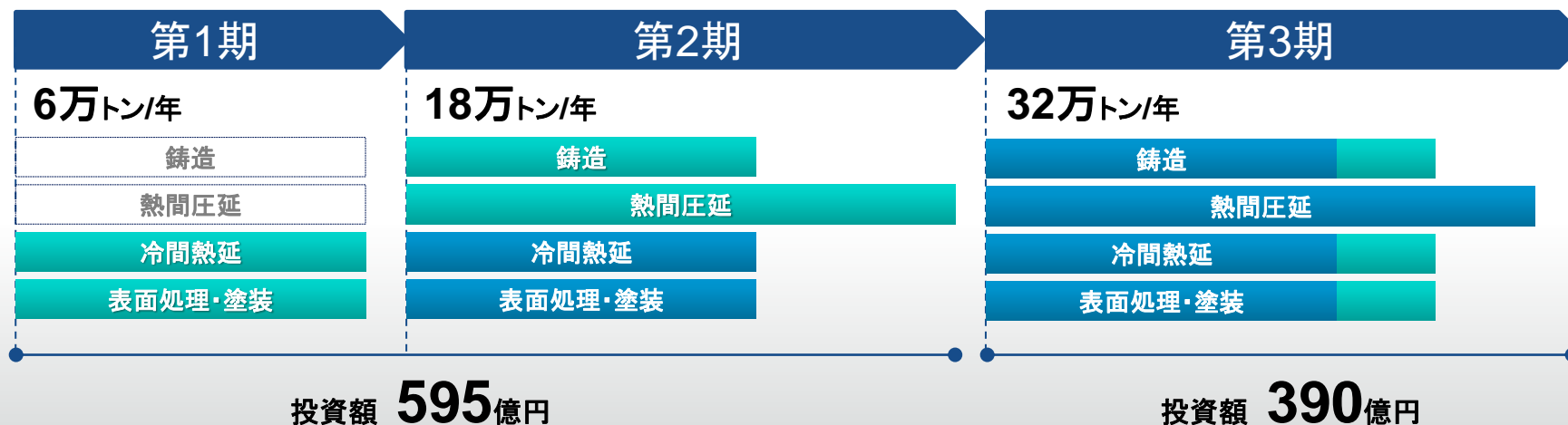
# 1-2. UATH 投資と販売数量の変遷

## 旺盛な需要を取込み堅実に成長を目指す

販売数量推移(千トン)



投資の推移と投資額



## 2. 中期計画 重点方針・重点課題

### 循環型モノづくりの完成を強みにした存在感のあるUATHの実現

#### 重点方針

3期起業の効果を実現し  
さらに現有設備を徹底活用

環境負荷低減推進に対応する  
新技術の追求

#### 重点課題

3期起業効果32万トン/年を超える  
生産量に向けた能力向上

収益力向上 最適な品種・地域・顧客構成  
新品种への取組み  
コスト低減

スマートファクトリー化の実現  
工場運営の現地化の実現

リサイクル技術の開発(スクラップ率向上)  
低環境負荷塗膜技術、缶材軽量化

Can to Can Closed Loopの構築  
ASI認証\*取得(2022年3月取得済み)

## 3-1. 販売戦略



# 01

東南アジア唯一の  
ミルとして域内シェア  
を拡大

### ➤ 米国＋アジアでの拡販を目指す

- ✓ 缶材需要の旺盛な北米市場の取り込みを継続(TAA\*の補完、北米向けはUATH内の20%程度)
- ✓ 2024年度以降はアジアでの拡販を目指す (現状48%→2024年以降55%)

### ➤ 缶材リサイクルループの確立

- ✓ タイにて、産官学が連携するCan to Can Journey に参画している  
缶のリサイクル優位性をアピールしながら、ASEAN内でのリサイクルの横展開を図る

### ➤ 収益改善

- ✓ エネルギー他各種高騰するコストを価格転嫁し、更にベース価格アップを実現し、  
収益拡大を図る



# 02

グローバルサプライヤー  
としての競争力を鍛え  
グローバル顧客  
との関係を強化

### ➤ 世界3極体制を活かした販売を強化

- ✓ 世界3極体制の情報網、人脈を最大限活用し、グローバル顧客との関係を強化  
UATH、TAA、UACJによるOne Stop対応強化
- ✓ 地場に強いエージェントの起用、拡大
- ✓ グローバル人材の育成により、営業力を強化

### ➤ 直販体制の更なる強化

- ✓ 地場人材の積極活用の推進など、組織・体制、人材教育の拡充

## 3-2. 販売環境、外部環境変化に向けた取組み

### 1) 需要状況と取組み

品目	2022年計画	比率	需要環境	取組み
缶材	272千トン	82%	↑	各地域缶材の需要は増えており、中国、韓国等からの供給が減少していることもあり、極めてタイトな状況。最適な販売ポートフォリオを持って、条件を改善しながら契約を延長している。
自熱交	28千トン	9%	→	足元、自動車の減産はあるものの、タイ、インドネシア、アメリカ、メキシコ向けに供給継続。
フィン材	26千トン	8%	→	欧州、北米、タイ国内向け等世界的に堅調なエアコン需要に応じてゆく。
その他一般	4千トン	1%	→	自動車部材等新規需要の取り込みを推進。
合計	330千トン	100%		

### 2) 価格適正化の状況

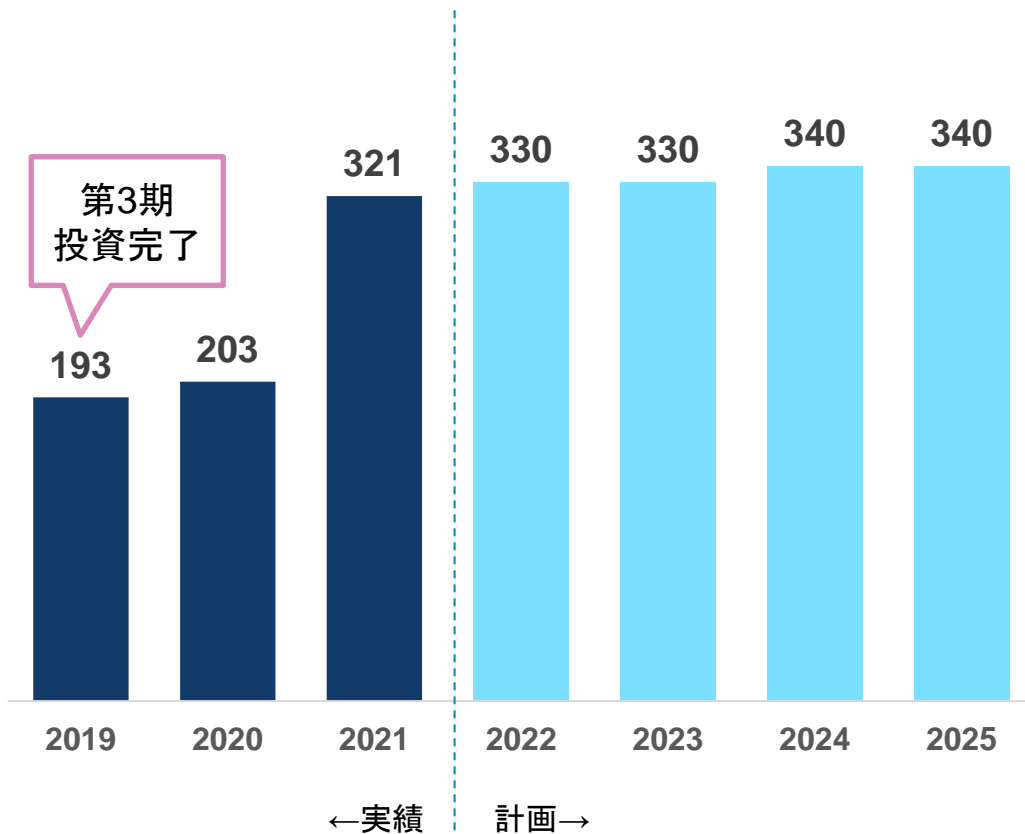
- ・2022年、2023年既存契約：各種コストの価格転嫁実施済、さらにエネルギーコストの転嫁を現在交渉中。
- ・2024年新規契約：各種コストのパススルー化条件の織込み、ベース価格アップを実現する。

項目	2022年まで	2023年	2024年以降
MJP	転嫁完了	→	→
添加金属	転嫁ほぼ完了 (95%)	→	→
海上運賃	転嫁完了	→	→
エネルギー	現在交渉中 早期妥結目指す	完了予定	→

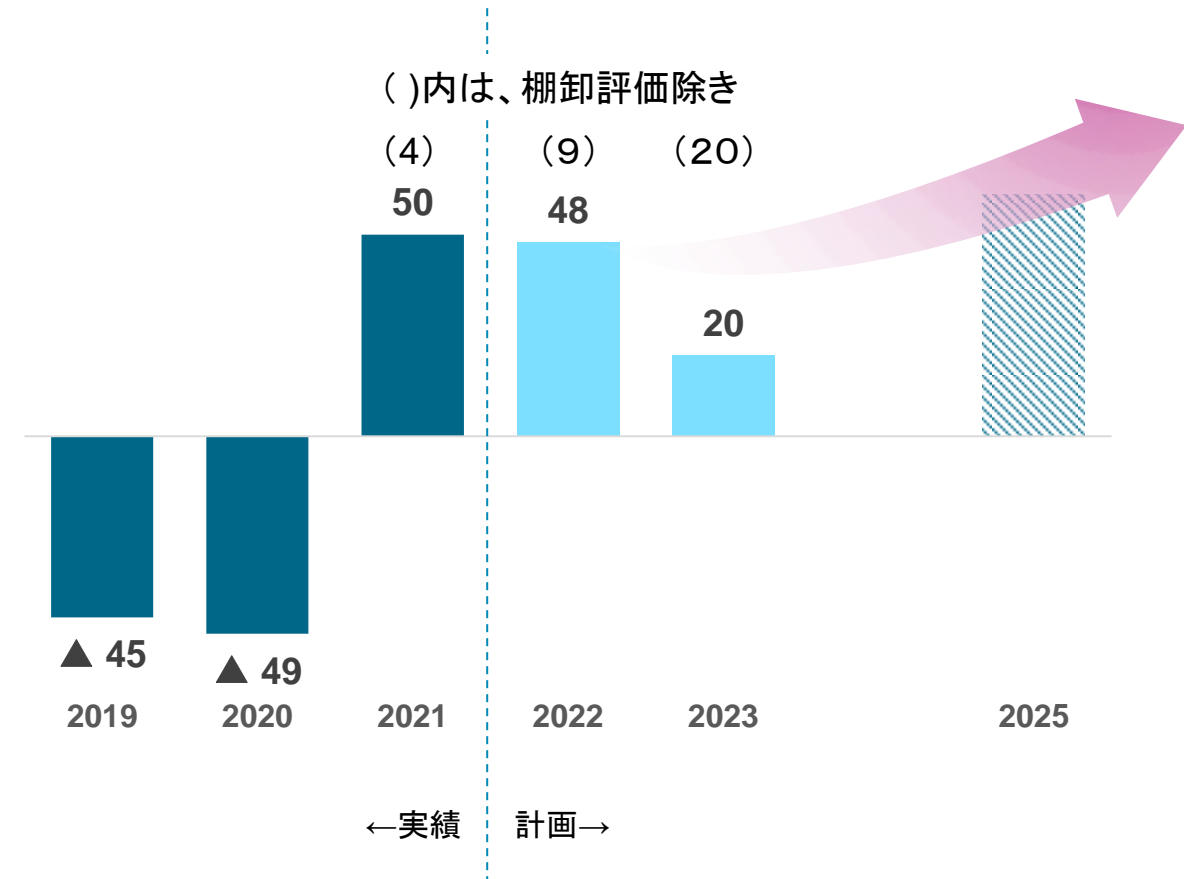
## 4. 販売数量、経常損益計画

2021年度は32万t/年の販売達成。今後はコストダウン・価格改定を行い増収を見込む

### 販売数量推移(千トン)



### 経常損益推移(億円)



# 5-1. 中長期課題と取組み

	2022年度	～2025年度	～2030年度
生産性向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓歩留の改善を追求</li> <li>✓33万トン/年の生産対応の実現</li> <li>✓既存設備能力の追求</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓世界最高水準の生産性確立</li> <li>✓34万トン/年の生産体制確立</li> <li>✓既存設備の最大能力化対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓世界最高水準の生産性追求</li> </ul>
収益性向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓コスト低減</li> <li>✓モビリティ関連製品参入</li> <li>✓グローバル販売体制の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓新製品開発と対応設備増強</li> <li>✓販売価格の交渉</li> <li>✓販売品種の最適化検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓新製品開発拡大、設備の導入</li> <li>✓販売品種の最適化完了</li> </ul>
工場のスマート化 現地化	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓業務効率改善 (IoT活用、システム改善)</li> <li>✓現地採用社員への業務移管推進</li> <li>✓階層別・業務別教育システム作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓スマートファクトリーの完成</li> <li>✓IoT活用による設備・システムの改善</li> <li>✓工場運営の現地化を確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓DX化推進</li> <li>✓人員再配置の推進</li> </ul>
環境対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ASI認証取得完了</li> <li>✓リサイクル技術の開発</li> <li>✓CO2排出量の削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓循環型サプライチェーンの構築</li> <li>✓リサイクル関連設備増強</li> <li>✓CO2排出量の削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓循環型サプライチェーンの完成</li> <li>✓CO2排出量削減目標の達成</li> </ul>
Can to Can	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓Can to Can Loop構築Step1</li> <li>✓UBC*の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓Can to Can Loop構築Step2</li> <li>✓タイ国内での缶材水平リサイクル化拡大</li> <li>✓リサイクル比率の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓Can to Can Loop拡大</li> <li>✓周辺国でのUBC*回収をシステム化</li> <li>✓リサイクル比率の最大化</li> </ul>

\*UBC: Used Beverage Can



## 5-2. スマートファクトリー取り組み状況

現在、具体的に取り組んでいるスマートファクトリー関連の主要4テーマは以下の通りです。

### 紙のデジタル化

01

#### □ 概要

現品に紙で添付しているMC\*をQRのステッカーに変更。工場内全体をWi-Fi化し、タブレット端末から即時に最新情報にアクセス可能にします。

#### □ 目標時期

2023年内 (Wi-Fi化は2022年末)

### 生産計画の自動化

02

#### □ 概要

人間が作成する生産計画を、2022年稼働開始予定のSalesforceからの納期情報と設備毎の条件・優先事項を勘案し、機械学習で自動的に算出します。

#### □ 目標時期

まずは2022年3Qにコンサル

### 製品設計の自動化

03

#### □ 概要

Salesforceに一元化した顧客仕様情報と、過去の設計した実績、設備条件をベースに工程を自動で組み上げ、設計業務を支援します。

#### □ 目標時期

2023年1Q

### 画像・動画情報の解析と活用

04

#### □ 概要

既設のカメラ情報を活用し、通常と異なる動作を自動的に検出します。これにより、品質異常を事前かつ早期に発見することができます。

#### □ 目標時期

2023年3Q

# 6-1. 持続可能な社会の実現に向けて

## 東南アジアでのリサイクル循環スキーム構築を先導

2020年11月25日

タイ環境省にて取り交わした飲料容器全般に関する覚書



20年11月25日の環境大臣会見

### Can to Can Closed Loop の取り組み

ASEAN域内のClosed Loopの要として社会/顧客/当社の利益となるビジネス構築を目指す  
タイ製缶大手と共にタイ政府/業界関係者を巻き込んだ活動を展開中



2024年予定  
新リサイクル材用処理炉稼働

2021年12月7日  
UBC購入、Closed Loop促進に関する覚書



21年12月7日の覚書調印式  
環境省からも高官が同席

## 環境循環に貢献する企業としての社会的認知を向上

### ASI認証

- ・PS: 2/14 暫定認証取得 / COC: 3/10 本認証取得
- 国内缶メーカーから認証材料供給の要請があり一部実施開始

\*: 日本アルミニウム協会VISION2050掲載数値より算出

## 6-2. CO2削減・太陽光発電システム導入(2022年度)



### 規模

工場屋根に設置する太陽光パネルの発電量として  
**世界最大級 東南アジアにおいて最大**

### 設置容量

**18.2MW**

総面積約87,000 m<sup>2</sup>⇒東京ドーム(46,755m<sup>2</sup>)の約1.9個分  
一般家庭の約7,600戸分の年間消費電力量と同等

### 年間発電量

**約25,000 MWh/年**

### CO2削減量

**約14,000 ton-CO<sub>2</sub>/年**

**K-EST**  
Kansai Energy Solutions (Thailand)

**K-EST**  
(Kansai Energy Solutions (Thailand) co., Ltd.)

**関西電力**  
power with heart

**関西電力株式会社**  
(Kansai Electric Power Co., inc.)

5月末 設置工事完了 ⇒ 6月予定 試運転開始 ⇒ 10月予定 本発電開始



*Aluminum lightens the world*

アルミでかなえる、軽やかな世界